

北条義時 大河の顔に

脚本・三谷幸喜さん 主演・小栗旬さん



記者会見後、写真撮影に
応じる三谷幸喜さん
=8日午後、東京都渋谷区のNHK放送センター

物語は平安末期から鎌倉初期の時代を描く。義時は源頼朝の天下取りを支えた13人の家臣団の一員で、頼朝の没後の内部抗争で勝ち残り、権力を手中にす

る。

東京・渋谷のNHK放送センタでの記者会見で三谷さんは「歴史の中で敗れ去った人たちにシノンパシーを感じる。義時は勝者だが、

今年の大河ドラマは長谷川博己さん主演で戦国武将・明智光秀が主人公の一韻譲がくるので、19日に

初回の時代を描く。義時は源頼朝の天下取りを支えた13人の家臣団の一員で、低迷を念頭に「大河は元気

がない」と言われるが、「こんなに楽しい枚は他はない。お力になりたい」と思つてい

る」と述べた。

書かせてもらうことになつた」と説明。大河の視聴率

鎌倉 喜びの声広がる

鎌倉幕府を開いた源頼朝の死後、執権として幕府のかじを取った北条義時が、NHK大河ドラマの主人公として描かれるとの吉報に、ゆかりの鎌倉市では「鎌倉の歴史や魅力を発信する機会」と喜びの声が広がった。

1218年、義時が建てた薬師堂を前身とする覚園寺（同市二階堂）の仲田順昌住職は「鎌倉や義時公が大河ドラマのテーマになることは、とてもうれしい」と歓迎した。頼朝の死後、激しい内部抗争の末に義時が権力を掌握したことを踏まえ、「権力闘争の歴史の上に、今の鎌倉や、鎌倉しさが形作られている。それが

「今からとても楽しみ」

どう描かれていくかを見たい」と期待した。

「まちの成り立ちや内面を、多くの方に発信する良い機会になる」と指摘するのは、市観光協会の大森道明会長だ。「鎌倉が名前だけ有名になるのではなく、その歩みを、豊かな自然や息づく文化とともに知ってもらいたい。協会も、こうした工夫ある施策をさらに打ち出したい」と、この好機を生かしていく意欲を示した。

松尾崇市長は「鎌倉幕府の礎を築いた北条義時公が主人公となったことは大変喜ばしく、今からとても楽しみ。ドラマ放映と連動し、鎌倉が育む歴史文化の魅力発信やシティープロモーションにつなげていきたい」とのコメントを出した。

（竹内 瑞梨）

NHK 22年放送「鎌倉殿の13人」

始まる。21年は吉沢亮さん主演で実業家・渋沢栄一を描く「青天を衝け」に決まり。2022年は三谷幸喜さん主演で、鎌倉殿の13人を描いている。

